



4R YCE 委員報告

4R YCE 委員 尾山 剛

2010年度夏季派遣生は、海外での派遣を終えて沢山の思い出をバックに詰めて帰国しました。ひと回りも二回りも大きくなった彼女たちのレポート読んでやってください。



- 中溝 優花
- フィンランド
- 岡崎ライオンズクラブ
- 2010, 7, 16~8, 13



- 因田 楓
- マレーシア
- 三好愛知ライオンズクラブ
- 2010, 7, 21~8. 19



- 伊藤 雅
- 三好愛知ライオンズクラブ
- フィンランド
- 2010, 7, 23~8, 20



- 白井 茉理奈
- アイスランド
- 愛知中央ライオンズクラブ
- 2010, 7, 23~8, 20



氏名	中溝優花		ID No.	FN-6
スポンサークラブ	岡崎南ライオンズクラブ		地区	334-A
派遣先	フィンランド	期間	7月16日~8月13日	
ホストクラブ				

今回このような素晴らしい機会を与えて下さったライオンズクラブの方々にまず感謝したいと思います。

私のスケジュールは7月16日から7月30日までがホームステイ、7月31日から8月7日までがキャンプ、8月8日から8月12日までがホームステイというものでした。



最初のホストファミリーは、ホストマザーとホストファザーの2人でした。ホストファミリーは私をいろんな所に連れて行ってってくれました。その中でも、初めてお城を見に行き行ってロマンチックだったことが特に印象に残っています。そのお城では、オペラを上演していて特別に会場入らせてくれました。迫力があって1度見てみたいと思いました。他にも、ホストマザーは料理が好きだったので大学いもと白玉を作ってあげました。大学いもは大好評でいろんな人に作り方を聞かれました。苦手かと思っていた黒ゴマは味がいいと言ってくれました。白玉にはきな粉がかかったものと小豆を乗せたものの2種類作りました。2種類ともトッピングが苦手かと思っていましたが、美味しいと言ってくれました。どちらの方が美味しいか聞いてみたところ、意見が半々に分かれました。ホストマザーもパンの作り方を私に教えてくれました。

パンを丸めるところは私も一緒にやりました。シナモンの香りと味がとても良かったです。いつも私のことを考えてくれていて安心して過ごすことが出来ました。

キャンプでは私を合わせて25人の若者がいろんな国から集まりました。もう1人日本人の女の子もいました。全てあわせて20か国の違う国から来ていて、一遍にこんなに違う国の人に会えるのが少し不思議でした。友達同士で自分の国の食べ物や人の性格、言葉、あいさつの仕方などいろいろ話しました。皆育った環境や文化は違うけど、考え方に違いはほとんどなく、国が違っても同じなのだと思います。夜には、キャンプファイヤーもありました。ギターを弾きながら歌う人もいれば、友達同士で話をする人もいました。このキャンプの目玉とも言える **Amazing Race** では、アーチェリーやカヌー、フィンランドの伝統的な食べ物を作りながらチーム戦で競争しました。結果は、私達のチームが優勝することができ、賞品も貰いました。まるで、学校の修学旅行のようでした。お別れの日、皆出発する時間がバラバラで夜の11時35分から大体3時間おきに人が去って行ってしまふ感じでした。皆さよならを言いたかったので、その日は全員でキャンプファイヤーに集まり徹夜しました。この短期間で泣きあえる一生ものの仲間が出来て良かったです。

最後のホストファミリーは、ホストマザー、ホストファザー、ホストブラザーの3人でした。そして、ダブルホストでキャンプでも一緒だった日本人の彼女とホームステイをしました。ホストブラザーと彼女と私で夜遅くまで話したりしました。少ないホームステイでしたが、ホストファミリーは私達のことを最優先に考えて下さって居心地が良かったです。グリーターの方々にもお世話になりました。

この体験を通して日本は本当に機械やアニメ、漫画の国なのだと感じました。フィンランドには世界一有名な携帯会社の **nokia** があります。携帯の技術はすごいものもありましたが、私の携帯を見てフィンランド人が驚いていました。車などの会社名もよく知られていました。日本もそういう機械の技術には負けていないと思いました。アニメもキャンプにいた時、いろんな友達からこんなアニメを知っていると話してくれました。もちろんポケモンやハローキティは知られていましたが、最近ではナルトが人気らしいです。漫画もマーケットなどの店屋に行くと、日本の漫画が訳されて売られてありました。アニメも漫画も私が思っていた以上に知られていました。

又、この一か月で少し大人に近づけた気がします。全てのことを自分で考え、行動しなくてはならなかったことが私を1番成長させてくれたことだと思います。自分のためだけでなく、誰かのために気づいて行動することも重要だということが分かりました。そして、いろんな人からの愛を感じました。このような素晴らしい体験が出来たのも、こんなに楽しい1か月をおくれたのもそのおかげです。自分でも気づかないくらい、いろんなことが成長したと思います。この体験をふまえてさらに成長して行きたいです。本当にありがとうございました。





氏名	伊藤 雅	ID No.	FN-4
スポンサークラブ	三好愛知ライオンズクラブ	地区	334-A
派遣先	フィンランド	期間	7/23~8/20
ホストクラブ	TALVITIE		

私は2010年ライオンズクラブ YCE 夏季派遣生として、7/23~8/20までの約一か月間フィンランドに派遣させていただきました。ホームステイ先に行くまでにかかった時間は18時間というとても長い時間でした。

最初の16日間の間はホストファミリーの家に行きました。家族のほとんどが英語を話すことができ、とても安心しました。両親が共働きだったので、平日のお昼はホストブラザーとホストシスターとお留守番していました。夕方仕事から帰ってきて、疲れているはずなのに近くの名所から図書館など日常的な所にも連れてってもらい、とても普段の生活を見せてくれて家族と同じ扱いをしてくれて、私も気が楽でした。最初の頃、私は英語が全然聞き取れず、しゃべれずでホストマザーを困らせてしまった時もあり、自分の勉強不足を恨みました。でも学校の夏休みの課題を持っていて、英語の教科ばかり勉強しました。会話で困った時には辞書や本を使い、どんどんホストファミリーとの距離を縮めることが出来ました。

そして英語にも慣れてきた頃、各国から集まった派遣生でやったキャンプが1週間ありました。全員で30人位いて、みんな英語がペラペラすぎてついていけませんでした。日本人はすごく人気あっていろんな人に話しかけられましたが、笑顔でごまかす日本人の悪い癖が出ていました…。でもみんな分かりやすいように話しかけてくれて自分も努力して理解するようにしました。そうしたらだんだんと話せるようになってすごく嬉しかったのを覚えています。特に思い出に残っているのは、夜にみんなで踊ったダンスタイムです。私はダンスをやっていて自信はあったのでノリノリで踊ったら「MIYABIー!!」とか叫ばれたりして、やっとみんなの輪の中に入れた気がして。あれ以上の喜びはありませんでした。そして、ここまで仲良くなり交流を深めてくると別れがすごく悲しすぎました。こんなにも「また会いたい。」って思えた仲間は初めてです。

みんなとハグし、写真をとって、みんな別れを惜しんでいて、離れたくないとも思いました。

そして楽しかった1週間が終わり、また4日間ホストファミリーの所に戻って前と同じ生活を送りました。キャンプで難しい英語に耳が慣れていたので、この4日間は自分が思ったことも伝えられたし、聞き取れたのでとても楽に楽しい日々でした。ホストシスターの夏休みが終わっていたのでお昼の間、一緒に学校に行ったことです。数学の授業などを聞いていると自分が日本でやっていた勉強と一緒に「世界に壁はないな！」と1人で感動していました。この4日間もすぐ過ぎてしまい、また悲しいお別れがきました。笑って別れようと思っていたのに、自然と涙があふれてきて。本当の家族との別れみたいで本当に本当に悲しかったです。私は、必ず将来またフィンランドに行きホストファミリーと再会することを誓いました。

最後になりましたが、私をフィンランドへ派遣して下さいましたライオンズの方々。それを認めてくれた家族。勉強を手伝ってくれた学校の先生と友達。応援してくれた恋人。あらゆる人の支えで今の自分や、一生忘れられない思い出があると思っています。これからも感謝の気持ちを忘れずに日々を過ごして行きます。本当にありがとうございました。

大好きなホストファミリーのみなさん



キャンプで知り合った一部の人たち



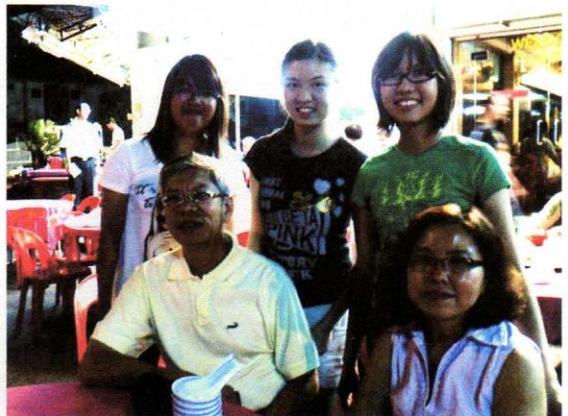


氏名	因田 楓	ID No.	ML-3
スポンサークラブ	三好愛知ライオンズクラブ	地区	334-A 地区
派遣先	マレーシア	期間	7/21~8/19
ホストクラブ			

私は今回マレーシアに派遣していただいて、日本では得る事の出来ない沢山の経験をしてきました。

このような機会を与えてくださった LIONS Club の方々、学校の先生方、現地の方々、全ての方に感謝、お礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

今回、私は2家庭でお世話になりました。第1ホストでは7月21日~24日と、間に2泊3日の YOUTH CAMP を挟んで8月6日~18日を過ごしました。第1ホストは首都・Kuala Lumpur で、沢山の観光名所に連れて行ってもらいました。Twin Tower、Central Market という昔からあるデパート、China TOWN、Indian のお寺、Chinese のお寺、本当にさまざまな場所に連れて行ってもらいました。現地の学校にも約2週間通わせてもらい、日本の学校生活との違いを自分で体感したり、友達を作ったりと学生ならではの体験もさせてもらいました。



そして7月24日~8月6日は、首都から車で約4時間程かかる Johor・Batu Pahat という都市に住む第2ホストの家庭で過ごしました。私のホストブラザーの学校は男子校だったため、19歳の学年しか女の子がいなと言われて、私は1週間の学校生活を2学年上の人たちと一緒に授業を受けて過ごしました。第2ホストの学校は学校自体が LEO

Club ということもあり、学校初日には全校集会の最後に壇上で自己紹介をさせていただきました。学校での生活は、私がマレーシアについて学ぶばかりではなく、私が日本語を教えてあげたりもしました。皆、日本に対しては凄く興味があるらしく、沢山の質問を受けました。そして、私が簡単な日本語の挨拶を教えると、翌朝から「ohayo」と挨拶をしてくれて、自分がクラスの輪に入れてもらったことが本当に嬉しく思いました。そして貴重な経験もたくさんさせていただきました。



そして、現地で2泊3日で行われた YOUTH CAMP では、マレーシアの民族衣装を着たり、マレーシアの遊びを体験したり、他にもマレーシアの文化について様々なことを教えていただきました。この CAMP には、日本人が15人参加しました。私は、今回の留学、海外派遣で英語への興味が以前より深まり、もっと身を入れて勉強しようと思いました。そして、向こうでの生活のお陰で、英語を話すことの恥ずかしさがなくなりました。友達もたくさん出来、日本へ帰ってきてだいぶ経ちますが、今もずっとお互いに連絡を取り合っています。今回、現地で出来た友達は私にとって特別な友達であり、一生繋がってほしいと思える友達です。海外に行くことで、自分の視野を広

げる事が出来て、また自分の進路も明確になってきました。実は、私は今回の海外派遣に自分でテーマを決めていました。それは「未来へ」です。私は、今回の派遣を励みに自分の未来を築いていきたいと思いました。このような機会を与えてくださった LIONS Club さん、三好愛知 LIONS Club の皆さん、学校の先生方、現地の LIONS Club の方々あるいは LEO Club の皆さん、ホストファミリー、現地の友達にもう一度感謝したいと思います。本当にありがとうございました。この経験や思い出は、私の宝物であり財産です。一生忘れることはないでしょう。そして、今後の私の生活に活かしていきたいと思います。次は、自分でチャンスを作ってまたマレーシアへ行きたいと思います。本当にありがとうございました。



	白井 茉里奈	ID No.	IC-1	
スポンサークラブ	愛知中央ライオンズクラブ		地 区	334-A
派遣先	アイスランド	期 間	7/23~8/20	
ホストクラブ	Pálmi Hannesson			

私は、約一か月間アイスランドへホームステイをさせて頂きました。ホームステイは今回が初めての体験ということと、ホームステイ先との連絡が全く取れぬまま現地へ向かわなければいけなく、とても不安でした。しかし、空港でホストファミリーと無事に出会え、とても充実した一か月を過ごすことができました。

アイスランドは、とても美しい場所で親切な人ばかりです。広大な景色を初めて見たときとても感動しました。私が一番好きな景色は、空です。空は天気の良い日だと真っ青でずっと見ていると吸い込まれそうな感じがしました。それに、気候がとてもよく日本で言うと、春の季節でした。他にも色々な景色を見ることができ、いろいろな体験をさせていただきました。

アイスランドの北部、ダルヴィークという町のお祭にもキャンプをしつつ参加させていただきました。

ダルヴィークの町は海のすぐ近くで、毎年スープパーティーやフィッシュフェスティバルが開かれています。スープパーティーは家ごとにスープを作って、他の家へ訪問し、スープを味わうというものです。勝手に他人の家に入っていいなんて日本では、考えられないことなのでとても驚きました。そして、アイスランドは、とても平和だなあと思いました。フィッシュフェスティバルとは、魚を使った料理(ピザ、フィッシュバーガー、お刺身、スープ、お寿司など)を無料で食べられるお祭りです。



そこで初めてクジラを食べました。とても貴重な体験をさせていただきました。

アイスランドの東部へも連れて行ってもらいました。ダルヴィークの町でたまたま会ったライオンズの方が私を連れていきたいと言って下さり、「ラッキーガールね」とホストマザーから言われるくらい貴重な体験をさせていただくことができました。

東部へは、車で約10時間かけて行きました。お天気にも恵まれ、冰山、氷河、火山後の山、滝など様々な景色を楽しむことができました。

たった一ヶ月のホームステイでしたが、一か月以上滞在したのと同じくらい楽しむことができました。



ここにはまとめ切れないほどの思い出や写真がまだまだあります。

どれもこれもとても大切な私の宝物になりました。アイスランドのツアーがなぜ日本にはないのか不思議なくらい満喫することができました。

このような体験をさせていただき、ホストファミリーやライオンズの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。